

ヨット、モーターボートの雑誌

Kazi

いろんな
場所で

いろんな
艇種を楽しめる

6

JUNE 2021

【特集】フネを借りる・シェアする という選択肢

8年ぶりの再挑戦

辛坊治郎、
太平洋横断に
出航

ボート紹介

ドラゴンフライ28

POWER

「ジャーノ-NC37」

連載

「スピードトライアル流迅に密着！」

「一つの理想、木造船に乗ること」

「着岸の方法を学ぶ」

第36回アメリカスカップ詳報

AC75が導く
新たな航跡

ジャパン インターナショナル
ボートショー 2021

英国RYA
ディンギーショーの注目出展

短期集中連載

市野直毅の470クリニック

左がザ・リビエラリゾートクラブの会員の
濱田哲彌さん。右が友人の黒川 寛さ
ん。クランク43ECOで鳥帽子岩こと
姥島を目指し、江の島を通過



プレステージ会員制クラブ「ザ・リビエラリゾートクラブ」

セール&パワーを シーンによって使い分け ワンランク上の マリンライフを楽しむ

リビエラリゾートが運営する、プレステージ会員制シェアクラブ「ザ・リビエラリゾートクラブ」。
10艇以上のセールボートとパワーボートから、ゲストや遊び方に応じて乗る艇を選ぶことができる。
かゆいところに手が届くサービスもうれしく、そこにはハイエンドなクラブライフが待っているのだった。

レポート=森口史察（本誌） 写真=矢部洋一
text by Fumina Morikuchi (Kaz), photos by Yoichi Yabe



リビエラ逗子マリーナはリビエラシーボニアマリーナと並び、ザ・リビエラリゾートクラブの要の一つだ。ほかにも下田と葉山でもサービスを提供する



マリーナに着いたら、まずはクラブラウンジで出港権を記入する。クラブラウンジは会員とリビエラ逗子マリーナに艇を置くオーナーのみ立ち入れるエリア

クランクの格好良さが クラブへの入り口に

「月2回くらいクラブ艇に乗って楽しんでます。家族や会社の仲間とはパワーボートに、セーラーの友人とはセールボートに、という使い分けができるのがいいですよ」と話すのは、ザ・リビエラリゾートクラブの会員である濱田哲彌さんだ。同クラブは、相模湾に面するリビエラ逗子マリーナとリビエラシーボニアマリーナを運営するリビエラリゾートの名を冠し、リゾートライフスタイルを提案している。

濱田さんは普段、相模湾でデイクルー



取材当日に予約していたクランキ43ECO。2015年のヨーロッパ・パワーボート・オブ・ザ・イヤー受賞艇だ

ジグやショートクルージングを楽しんでいる。マリネジャーを本格的に楽しむ転機となったのが、リビエラリゾートが主催する2017年の若大将カップ。知人に誘われて出場し、ファーストホームに輝いた。

「もともとセーリングに興味はあったのですが、どうやって始めればいいのかわからなくて、一から学べるヨットスクールに入りました。2年ほど後に、同じスクールのパワーボートのコースも受講しました。あるボートショーのとき、リビエラリゾートのブースにあったイタリアのパワーボート、クランキの模型が格好良く見ていたら、「どうぞどうぞ」と中に招いてもらって。そこでクラブのことを知ったんです」

もともと車や自転車も大好きという濱田さんは、セールボートを所有したい気持ちもあったという。

「でも、セールボートは車や自転車ほど気軽に買えないじゃないですか。知人のヨットを買おうかなと真剣に悩んだ時期もあったのですが、ザ・リビエラリゾートクラブだとセールボートもパワーボートも乗れていいなと思って入会しました」

クラブ艇ラインアップは全10艇以上

会員の種別はプレミアとゴールドの二つで、ゴールドは5年の期間限定も選べる。プレミア会員ではフランスの高級クルージングカタクマランヨット、ラグーン440も借りられるとのこと。定員はなんと30名で、大人数での船上パーティーなどにうってつけだ。

クラブ艇はセールボート(全長28～50ft)、パワーボート(全長24～43ft)全10艇以上をラインアップ。

基本のレンタルは事前予約制で1日または1泊2日。予約が空いていれば連続した3日間でも借りられるが、事前に相談すること。航行可能区域は限定沿海で、



上: フライブリッジの左舷側にあるヘルムステーション。右舷前方にはL字形ソファとテーブル、後方にはサンベッドがある

下: 明るいメインサロンにはIHコンロを備えたギャレーもあり、簡単な調理も可能。キャビンは三つあり、特にバウのマスターステートルームは広々としている



右: マリブファームから届いたできたてのサンドイッチとオードブル。ナプキン、カトラリーも一緒に届けられる。下: フライブリッジでまずは昼食を。選手満ち心地よい風が吹き抜け、自然と笑顔に

米LA・マリブの人気レストラン、マリブファームが日本に初上陸。食事はもちろん、絵になるスポットで人気が高い



photo by Riviera Resort





YAMAHA ヤマハ

左:ヤマハのバーチャルブースでは、橋樑から見たいボートをクリックすると、船内に誘導される
上左:バーチャルで見られるEXULT36の操縦席。船からの海面の見え方は、ボートショーで
マリーナ内で見るとよりイメージがしやすいかもしれない

上右:EXULT36の船内の様子。外の見え方も、リアルに近い状況で見ることができた

バーチャル会場

全国のセーラーが参加 ネット上のボートショー

レポート=松山 暁(本誌) 写真=山岸重彦(本誌)、宮崎克彦(本誌)
report by Aki Matsuyama (Kazi), photos by Shigehiko Yamaguchi (Kazi), Katsuhiko Miyazaki (Kazi)



バーチャル会場トップページ

3隻のボートが宙に浮いていて、人々が行き交う。中に口論をしているカップルも見える。バーチャルボートショーのサイトを立ち上げ、最初に訪れる「ロビー」と呼ばれるページは、まるで未来のボートショーを訪れたかのようなバーチャルな空間が広がっていた。

今年初の試みとなったバーチャルボ-

トショーは、開催期間中、いつでもネットを通じて無料で閲覧することができた。61の出展者がサイト内でブースを作り、来場者は会場に足を運ばなくとも、ボートショーを体験することができる仕組みだった。

ロビーから展示会場をクリックし、出展者ブースに出かけてみると、各社ともヨットやボートの画像や動画を貼り、リンクから自社のサイトに飛ぶスタイルが多かったように思う。リアルに近いバーチャルな世界を突



RIVIERA リビエラ

リビエラのイメージカラーで統一されたバーチャルブース



UNIMAT ユニマツト

分がかりやすいように文字が入った、ユニマツトのブース

現したわずかな出展者のうち、一際目立ったのは自社でバーチャルのページを作ったヤマハのブースだ。橋樑でボートを選び、船内、船首、船尾、操縦席などを見学する。リアルに試乗する感覚でボートショーを体験することができた。

バーチャルボートショーは全体的に、システム上の課題も含め、来場者をバーチャル空間にいざなう工夫はまだ試行錯誤の途中と感じる。やはり直接会場に足を運び、イベントを体験したい。